

## グローバル・キャリア・デザイン 3 (FSP 北米) 報告書

学部：法学部 学年：1 (参加当時)

### 1, 学習成果について

私はコミュニケーション能力の向上を FSP で達成したい一番の目標として掲げていました。その中でも具体的項目として、プレゼンテーション、アメリカで会った人とのコミュニケーション、FSP メンバー間のコミュニケーションの3点について述べたいと思います。

まずプレゼンテーションについてです。事前授業で発表したときは、班内でどういうプレゼンにしたいかが定まっておらず、私自身もとりあえずスライドを作って原稿を読んだだけで、あまりプレゼンに対して真剣に考えていませんでした。しかし他の参加者から厳しい評価のフィードバックを受けたこと、同じく 2016 年春に開催されたアジア班のプレゼン内容が濃く、楽しいプレゼンを見学したことで、負けず嫌いな性格に火が付き、そこから準備に力を注ぎました。上手なプレゼンの秘訣を本やネットで調べ、英語プレゼンテーションコンテストの受賞者の動画を見て、自分に取り入れられるものがないかを探しました。班全体でも、現役の日本の大学生が話すということを重視し、明るく硬くない雰囲気ですべて audience に楽しんでもらうプレゼンを目指すことに決まり、personal information や自分の意見を増やし、情報を伝えるだけにならないように注意しました。話す内容や使う言葉が大きく異なるので、どういうプレゼンにしたいかを先に決めることが大事だと分かりました。ある話に対して audience が受け取る印象の 63~90%が、話し方によるものだというのを知り、笑顔やアイコンタクト、Body Language を意識するようになりました。元々人前で話すことに大変苦手意識がありましたが、大勢の人前で原稿を持たずに 7,8 分一人で話し続けられたことは、大きな成長だと思います。もちろん反省点はありますが、たくさん準備をすれば自分も人前で堂々と話せるのだと自信ができました。

次にアメリカで会った人とのコミュニケーションについてです。FSP メンバーみんなが言っていることですが、アメリカ人は本当に優しく、フレンドリーでした。エレベーターで私たちが先に降りるときに、Have a good day!とってくれたこと、道で地図を広げていたら向こうから Where do you want to go?と聞いてくれたこと、道を尋ねたら 15 分くらいかかるのに目的地まで案内してくれたこと、お店でたくさん話しかけてくれること、目があったら微笑んでくれること、ドアを開けて待っていてくれること、など挙げたらきりがありませんが、数多くの嬉しい経験をしました。アメリカ人にはどんな場面でも誰かとコミュニケーションを楽しめる心の余裕があるのだと感じました。日本人は礼儀正しい、親切と言われますが、それはより形式的であり、万人に対して向けられるものではないと思いました。人とのコミュニケーションについて考えたとき、もちろん私自身を含めて日本人はもっと余裕を持ち、生活のちょっとした場面でも他人を気遣い、一言や表情、視線だけでもコミュニケーションをとることを楽しんでいくことができたらよいと感じました。

最後に FSP メンバー間のコミュニケーションについてです。2 週間海外で生活すること自体が大変で疲れることですが、さらに学年も学部も違う 20 人と過ごすというのが FSP の醍醐味だと思い、色んなメンバーと話し、みんなと楽しむということを意識しました。途中でみんなといることに嫌気がさしてくるのではないかと懸念していましたが、そのようなことは全くありませんでした。毎日普段の 2 分の 1、3 分の 1 ほどの睡眠時間しかとれなかったのにも関わらず、時間をフルに使い、テンションが落ちることなく、みんなとご飯を食べに行き、自由課題活動（海外研修前に各自が課題を設定し、プログラム外の時間を使って海外研修時に行う課題）を回れたことは自分の中でとても驚きでした。タスクに追われていたり、時間ぎりぎり準備するというのではなく、ある程度余裕をもって過ごすことができました。私はフットワークが重く、出来れば一人で家にいるのが好きなタイプだと自分で思っていました。何か他の部分で犠牲を払うことなく、こんなにも日々大勢の人として、アクティブに動き続けられたことが本当に意外で、札幌に帰っても疲れることや自分の時間がなくなることを気にせずに、アクティブに生活していこうと思いました。

## 2. セカンド・ステップに向けての行動計画について

海外研修中の 2 週間で自分の英語力がいかに乏しいかを実感しました。2 年次からは必修の英語の授業がなくなり、何か目標や達成度を計るものがなければ英語の勉強を続けていくのは困難です。そこで 2016 年の 10 月くらいまでに TOEIC を受験し、それに向けて勉強していこうと決めました。全国の大学二年生の平均スコアが 448 点であり、商社や外資系といった業種の応募資格として必要とされる平均スコアが 790 点とされています。800 点台後半を取れるように勉強していこうと思います。近年は就職の際に英語力を見る企業も増えており、ハイスコアは大きなアピールポイントになります。研修中の講話でも、英語の勉強を大学生の間にしておくべきと多くの方が言っていました。点数が高くても実際に使えるものとして習得しなければ意味がないので、特に **Listening** や語彙力を伸ばすことを重視していきたいです。

今回の研修を通して、専門分野を学ぶための長期留学への関心は低くなりました。深い専門知識を持ち、十分な英語力にプラスしてその分野の **Vocabulary** を習得していなければ授業についていけず、十分な成果を得ることができないと思ったからです。また理系の学問や経済などと異なり、他国で法律を学んでもそれを直接的に日本に帰ってから生かすのは難しいと感じました。日本で専門性や英語力を高めることが優先であること、外国で学んだ法律の知識をその後活用できないことの二点が大きな理由です。

アメリカでたくさんの発見や驚きがあり、今まで持っていたイメージが全く変わりました。いかに自分が固定概念を持っていたかが分かり、学生の間に来るだけ色んな外国を訪れ、視野を広げたいと思いました。サマー、スプリング・プログラムまたは北大外のプログラムを利用して、2, 3 年次の長期休暇に短期で海外に行きたいと思っています。個人

の旅行ではできない体験がたくさんできたので、なるべく研修、留学という形で海外に行くのがより充実した海外滞在になると考えました。アメリカ内の今回訪れていない州や、また他の英語圏の国にぜひ行ってみたいです。それが直接的に学部の勉強や進路などに結びつかないかもしれませんが、視野を広げ、異文化理解力を高めることで、今後色々な場面で役立つことがあると思います。そのために留学の様々な情報が手に入りやすく、奨学金制度が充実している新渡戸カレッジのプレイスメントテストに2016年4月2日にチャレンジし、仮入校しました。1年次には新渡戸カレッジに全く興味がありませんでしたが、FSPを通して入ってみようと思ったのは大きな変化です。入ろうと思ってからプレイスメントテストまで全く時間がなく、TOEFL-ITPで500点以上取れるか不安でしたが、去年の6月より24点アップしており、合格することができました。具体的にどこに行くか、どのプログラムで行くかは決めていませんが、新渡戸カレッジも最大限利用しつつ、情報収集して自分に最適なものを探しています。

### 3. 今後の進路について

海外研修中に訪問した協定校や企業の方々、過去にFSPに参加された先輩方など様々な方からお話を聞いて、残りの大学生活の過ごし方やその後の進路、キャリアを含め、どういう人生を送りたいか深く考えるようになりました。特に人生で何を大切に、どうしてその職業を選んだか、その方によって全く異なりますが、明確な意思や理由を持っていると感じました。「人生で何が重要か、何が一番譲れないポイントか」を講話の中で取り上げて話していただき、私もそれを決めたいと思いました。将来の理想のイメージはあるものの、具体的に言葉で表し、一番は何かを考えることで、今後の過ごし方や、人生で様々な決断を迫られたときの指針になると思います。その講話を聞いてからずっと考え続けていますが、まだ答えは出せていません。FSPメンバーと話したり、先輩方の話を聞いたり、本を読んだりして、自分なりの答えを見つけたいと思っています。

私は、安定した職業だから、民間企業の就職活動が大変そう、という理由で漠然と公務員になりたいと思っていましたが、FSPを通して、仕事を選ぶ積極的で明確な理由を持つべきだと感じました。それを考えたとき、これから仕事をしていく上で女性であることが不利にならないということを重視したいと思いました。日本は男尊女卑の意識をなくそうとしてはいるものの、世界と比較して未だ根強く残っており、仕事で活躍していきたいと思ったときに女性であることが障壁となる場合があります。女性の働きやすさが確保されていることが重要だと、FSPの企業訪問を通して感じました。このように仕事を選択する上で何を重視するのかを考え、広い視野を持ってキャリア形成をしていこうと思います。

就職先についてしっかり考えるのは2年生の後期から3年生にかけての時期で良いと思っていました。しかし実際に働いている方からその方の企業や業務について、何を考えどう行動してきたかを聞いて、いかに仕事が生産の中で大きな部分を占めているかが分かりました。人より早い時期から、アンテナを張って情報を集め、考えることができるのはア

ドバンテージになるので、これからも選択肢を絞らずに模索し続けていきます。

#### 4, 自由課題活動で得られたこと

法学部として司法に関係のある場所を訪れたいと思い、ポートランドで旧裁判所を見学しました。アメリカも三審制をとっており、第一審裁判所(地方裁判所 **district court**)、第二審裁判所(控訴裁判所 **Court of Appeals/Circuit Court**)、最高裁判所(**U.S. Supreme Court**)が置かれています。私が訪れたのは控訴裁判所で、第一審裁判所の判決に不服がある当事者の控訴を受理する裁判所です。アメリカは訴訟大国と言われており、10万人当たりの訴訟件数は、日本の651件に対してアメリカは3,095件と非常に多いことで有名です。一方で、途中で和解になることが多く、判決率47.4%の日本に比べてアメリカは僅か3.3%なのです。弁護士数や訴訟数、司法試験の難易度などを外国と比較し、日本の司法制度が批判されることが多いように感じますが、むしろ現在の日本くらい司法というものに対して敷居が高くあるべきではないかと思いました。簡単に訴訟を起こすことができるというのは自由であるようで、満足度の低い社会だと思います。重厚感のある立派な法廷の裁判員席に座りながら、今後法学部の専門科目を本格的に学ぶにあたって、法の解釈、体系だけでなく日本の司法制度そのものも考えていけたらよいと思いました。

プログラム外の行動として有意義だったと思うのはUMass2日目の朝、朝食から授業見学までの30分ほどの空き時間を利用して学食に行き、1人でのいる学生に話しかけにいったことです。訪問国調査(訪問国をより深く理解するために、事前にトピックと質問を考え、海外研修中に最低5名から回答を得る課題)を名目に少し時間をもらってよいか聞いた上で、自己紹介から始まり、訪問国調査から発展させて会話をさせてもらいました。2人とそれぞれ10分ちょっとの時間ではあったが、勇気を出して話しかけ、使える限りの英語を話し続け、早い英語を出来るだけ聞き取るなど、最も積極的な時間だったと思います。もちろんプログラムに組み込まれたUMass,PSUの学生との会話もとても楽しかったのですが、日本語が少しでも分かっている、日本人と話しにきている学生ということに甘んじていた部分がありました。同じことを日本人にするのも大変勇気のいることですが、自分に関する事前情報が全くないアメリカ人に話しかけ、会話を試みるというのはとても大きなチャレンジでした。2人とも突然のことにも関わらず快く付き合ってくれて、とても良い経験となりました。

#### 5, FSP参加を考えている人へのメッセージ

応募するまでに相当迷いましたが、終えた今参加して本当に良かったと思っています。FSPは事前研修、現地での2週間、事後研修、たくさんの課題、各班活動とタスクは山ほどあり大変忙しいです。また奨学金を受給できましたが、ある程度の費用がかかります。しかしそれらの時間的犠牲やかかった費用を上回る、素晴らしい経験ができたと思います。海外での研修はもちろんのことですが、FSPに応募する時点から事後研修までのあらゆる

ことから学びがありました。さらにそれらを 20 名ほどの仲間や国際本部の方々と楽しみながらできるということ、これが大きな魅力ではないでしょうか。自由時間の行動計画をみんなで立て、迷いながらも地図を見て回るのには、修学旅行のようでした。また海外で 2 週間過ごすのですから、当然物をなくす、具合が悪くなるなど、色んなことが起こります。そんなときに、一緒に行くメンバーや引率の方々がいることは大変心強く、どれ程助けられたか分かりません。今後留学したいと考えている方は、良い練習になると思います。そして一番は、視野が広がり、大学在学中の過ごし方やその後の進路について深く考える機会になるということです。年齢、性別、国籍、経歴などの異なる、様々な方のお話を聞いて多くの選択肢があることを実感し、今後自分はどうしていきたいかをじっくり考えさせられました。またその考えをメンバーと共有したり、アウトプットできる場があるので、整理していくことができます。

よく言われることかと思いますが、改めて受け身でいることのもったいなさを感じました。日程やすべきことが決められており、場が与えられているので、このプログラムを受け身のまま終えることは可能だと思います。しかしその場その場をどれだけ自分のために生かせるかは、各個人の積極性に委ねられていると感じました。FSP を通して何かを得たい、成長したいと願い、主体的に行動出来れば、大変有意義なプログラムにすることができると思います。